	Jスクの程度 の評価		A 英理作用 B 相互作用		C 重策な副作用のおそれ C' 選		C' 電管ではないが、注意 D 濫用のお				į.		製品群No. 57 (最後用方法(線使用のおそれ) 使用方法(線使用のおそれ)			H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化				
67	評価の視点		 薬理作用 	相互作用 併用減忌(他 剤との併用に より重大な問 題が発生する おそれ)	併用注意	重腐な副作用 薬理・毒性に 基づくもの	情異体質・ア レルギー等 によるもの	き副作用のお 薬理・毒性に	それ	薬理に基づく 習慣性		漢童投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそ れ)	につながるお それ	症状の判別	は田豊に上	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被 害のおそれ	スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
1	遺痛・消炎薬 循・消炎薬 軟膏		鎮痛作用・扩 炎症有性用・抗 有炎症を 有炎症を が が が が が が が が が が が が が が が が が が が					0.1%~5%未 流(そう痒、発 赤、発 赤、発 赤、発 赤、発 (こりに) を を が 、 を が 、 発 変 が 、 を が 、 を が 、 を が 、 を が 、 を り 、 り 、 り 、 り 、 を し 、 を し 、 を し 、 を 、 を し 、 を 、 を と の を 、 を と を と を と を と を と を と を と を と を と			・本剤又は他のインドメタシン製剤に 対して過敏症の既 住歴 ・アスピリン階息又 はその既住既(重 症喘息発作の誘 発)	・感染を伴う炎症 ・妊婦又は妊娠して いる可能性のある	場合には怒	はなく対症療 法		眼及び粘膜に使	掘している可能性のある 婦人に対して は広範囲に わたる長期			下に痛変症別と解析という。 には消失をは、一般のない。 には、一般のない。 には、一般のない
	インドメタシ: 貼付剤	カトレップ	頭痛作用・表 炎症作用・表 炎症を含。慢性 炎症に対 変症に対 力を示す。					0.1%~5% 未満(発赤、そうな、発 を、かぶぶ。 0.1%未満(セリヒリ感、腱 展)			本剤又は他のインドメタシン製剤に対して過敏症の肝体	・怒染を伴っ炎症 ・妊婦又は妊娠して いる可能性のある 婦人	症に用いる 場合には感	原因療法で療 はなく対症療 法 慢性疾患節 形性薬 がは 取 が は 取 り が は よ り な く な の の な く を の を の を の を の を の を り が し を し を し を し を し を し を し を し を し を し		損傷皮膚及び粘膜、湿疹又は発疹の部位に使用しないこと。			1日2回應部に貼付する。	下に痛変症囲炎上(等外腹腔な消性層、腱骨、炎、腕二、傷寒の炎関関腱周上肝核の痛寒の炎関関腫周上肝核の痛寒の炎関
	インドメタシ 外用液	ンインテパン 外用液	鎮痛作用・ 技術作品を 資産を 受力を 受力を 受力を でいた。 対力を があります。					0.1%~5%未 満 7年、発 (そ7年、発 (を発) 0.1%未満 (ドリヒリビリ 原 原 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、			本剤又は他のインドメタシン製剤に対して過敏症の既住歴アスピリン階島又は在哨息又は在哨息発作の誘動発力の影響を発力がある。	・感染を伴う炎症 ・妊婦又は妊娠して いる可能性のある	症に用いる 場合には感	を 原因な対 の で 独 で 独 で 独 で 独 で 独 で 来 断 で 独 で 来 断 で 来 断 で 次 以 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水		妊婦の場合では、 妊婦の場合では、 妊婦に対する。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	娘に性いる。 ・	T	症状により、適量を1日数 回患部に塗布する。	下に痛変症囲炎上に筋後痛配症消形、炎、腕二肉の腫腫の大腹の腫腫の大脈の腫腫の大脈の腫腫の大脈の腫腫の大脈の腫腫の大脈の腫腫の大脈を関して、原の大脈を使いでは、原の大脈を使いを使いでは、原の大脈を使いを使いを使いを使いを使いを使いを使いを使いを使いを使いを使いを使いを使いを
	グリチルレーン ン酸	チ デルマクリン 軟膏	ンステロイド様 抗炎症作用 (浮腫抑制、 肉芽腫抑制 抗紅斑)		THE SECTION OF THE SE				5%以上ある いは頻度不 明(過敏症)	·						使用はしないこ 眼科用として使 用しない。			通常、症状により適量を1 日数回患部に塗布または 塗擦する。	」 湿疹、皮 痒症、神 膚炎

				鎮乳	痛・鎮痒・収れん	・消炎	薬(パップ)	刹を含む)			製品	品群No. 57		資料4-36	<u>_</u>
リスクの程度 の評価		A 薬理作用	8 相互作用	○ 重篤な副作用のおそれ	C'重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ	D 濫用のお それ	E 患者背景(既往 篤な副作用につな	歴、治療状況等)(重 がるおそれ)	F 効能・効果 につながるお	(症状の悪化 それ)	G 使用方法(誤使用のお	それ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化		
評価の視点		薬理作用	相互作用。自由自由,自由自由,自由,自由,自由,自由,自由,自由,自由,自由,自由,自由,		重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	習慣性		慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそ	につながるお	症状の判別	使用方法(誤使用のおそれ		スイッチ化 等に伴う使		
	-		併用禁忌(他 併用注意 剤との併用に より重大な問 動が発生する おそれ)	条理: 養性に 特異体質・ 基づくもの レルギー等 によるもの	? 薬理・毒性に 特異体質・ア 基づくもの レルギー等 によるもの			h)		する(適応を	使用量に上 適量使用・額 限があるもの 用のおそれ	供使 長期使用に よる健康被 害のおそれ	化	用法用量	効能効果
ケトブロフェ ン	1	急性炎症・持続性炎症・検験性変症の対する。 対する、負債 作用を有する		ナフィラキ シー操症状 喘息発作の 誘発(アスヒ リン喘息) 接触皮膚炎	P 頻度不明 (局所の東次等) (局所の東次等) (場底、色素) (場所の東次等) (場所の東次等) (場所赤、水、海・(場所・水水・海・(場所・適用・(場所・適用・(場所・適用・(場所・適用・(場所・適用・(場所・)の) (場所・)		成分に対して過敏 症の既住歴 アスピリン喘息又 はその既往歴(端	気管支端息、窓染 を伴う炎症、高齢 表は縁 産婦、足婦 東場等、近年生体 東東児、新生児、乳 児、幼児又は小児、 慢性疾患	症に用いる 場合には感 染症不顕性	原は法接光は日しこ慢形で法法を投入する。変)の遺母には近日して世界では、現場を対する。 の遺母にない たい 疾間 薬の の 遠 の で 療 の 遠 の は の は の は の は の は の は の は の は の は	表皮が欠損いる場合にすると一時によると一時による。 にり 感 び む 観 用しない を 利力 包 本 に 東 は し は し は し は し は し は し は し は し は し は	使用 付に に使 での		症状により適量を1日数回患部に塗擦する。	下ら鎮东、西野、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、
ケトプロフェ ン	モーラス(貼 付剤)	急性炎症に対する抗性炎症に対する抗腫体の原理を抗腫症の対象を対しています。		ナフィラキンシー株症状 戦息発作の 誘発(アストリン階級) 5%末満、 特例は稲原	5 0.1%未満 (皮下出血)	h.	成分に対して過敏症の既住歴		症場染化性炎症 場外化性炎症 性性炎症 性性炎症 性炎症 性炎症 性炎症 性炎症 性炎症 性炎症 性炎	はなく対症療法検験の関係を受ける。 との はない はない はい	損傷皮膚及 腹、湿疹又に 疹の部位に て刺激があ で使用しない	は発し 対し るの		1日2回患部に貼付する。	下に痛変症囲炎上で、等外脹記症消化層、腱骨ス筋後痛の炎性の原性を
	ション 後発品なし	急性炎症・持 続性炎症 炭症 炭症 炭症 大 が 角 用 を 有 有 の 作 の 行 の 行 の 行 の 行 の 行 り 行 り の 行 り の 行 り に り る り る の も る る る る る る る る る る る る る る る る る		ナフィラキ シー株症状 端息発作の 誘発(アスヒ リン階息) 598未満、3 特例は頻度	2 0.196未満 (適用部の皮)		成分に対して過敏 症の既住歴 アスピリン喘息又 はその既往歴(発	児、幼児又は小児、 慢性疾患	症場 全化接光が身症 しいけい は類 膚敏 し膚ば化 触線 過化度 がままれる 膚 は しゅう は から は か	はなく対症療法験度の関係を受ける。 おいっぱん はない はい	表皮を場合に対すると感明とない。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	使用 tな に使 での		症状により、適量を1日数 回患部に塗布する。	下に痛変症囲炎上(等外服・症が形に、形の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関して、一般の変症を関する。
ナリチル酸グ Jコール	配合のみ														
	サリチル酸 メチル「ミヤ ザワ」 後発品なし				過敏症		本剤過敏症の既 住歴				眼には使用 い。大量使月 よる頭痛、悪 嘔吐、食欲 振、頻脈	11. (0.)		5%又はそれ以上の濃度 の液剤、軟膏剤又はリニメ ント剤として皮膚局所に塗 布する	額痛·消

鎮	[痛·鎮痒·	収れん・	消炎薬(ノ	パップ剤	刑を含む)
鎮	「痛・鎮痒・	収れん・	消炎楽い	ハツノ角	三の四の	•

				鎮掮	・鎮痒・収れん・	·消炎	薬(パップ剤	を含む)			製品群No. 5		資料4-36	
リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意 D 濫用のは すべき割作用のおそれ それ		6 日患者背景(既往歴、治療状況等)(重 篤な副作用につながるおそれ)					H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化		
平価の視点		薬理作用	相互作用	重腐な副作用のおそれ。 (京学) (京学) (京学) (京学) (京学) (京学) (京学) (京学)	■ 重篤ではないが、注意すべ 薬理にま き割作用のおそれ 習慣性 ア 薬理・毒性に 特異体質・ア		慣性	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそ れ)	一につながるお)ながるお 症状の判別 に注意を要	使用方法(誤使用のおそれ) 使用量に上 過量使用・誤使 長期使用に 限があるもの 用のおそれ よる健康被	スイッチ化 等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
ビロキシカム 飲養	バキソ軟膏	ア代カンナースのでは、アラボールでは、アカーのでは、アカーでは、アルでは、アルでは、アルでは、アルでは、アルでは、アルでは、アルでは、アル		多づくもの レルギー等 によるもの	基づくもの レルギー等によるもの いか (によるもの になるもの になるもの になるもの (湿疹・皮膚 変) の 196未満 (発赤、発 (発赤、発 推 維 様 落 せつ)		本剤の成分過敏 症の既住歴 アスピリン喘息又 はその既住医(重) 線な喘息発作の説	気管支喘息、感染 を伴う炎症、高齢 者、妊婦、健婦、低 出生体頭児、新生	症に用いる 場合には感 染症不顕性	原因療法ではなく対症療法	客のおそれ 表皮が損傷して いる場合に使用 すると一過性の 刺激感		部に漆擦する。 高齢者には必要最小限の 使用にとどめる	下に炎・酸原腺・火・原原腺・火・原体・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・水・
フェルビナク 軟膏	ナパゲルン教育	用、鎮痛作用 を有する。			0.1~1%未満 (そう痒、皮 膚炎、発赤) 0.1%未満(接 触皮膚炎、乳 激感、水疱)		アスピリン喘息又 はその既往歴(発 作の誘発)	感染を伴う炎症 妊婦又は妊娠して	症に用いる 場合には感	度 (京本) (京本) (京本) (京本) (京本) (京本) (京本) (京本)	すると一過性の		症状により、適量を1日数 回患部に塗擦する。	下記在: 市
フェルビナク 貼付剤	セルタッチ	プロスタリーのでは、大学のでは、まればればればればればればればればればればればればればればればればればればれば			0.1~1%未満 (皮膚炎(発 疹、湿疹を含 む)、そう痒。 免赤、接触皮 膚炎) 0.1%未満(刺 激胶) 頻度不明(水 疱)		本利又は他のフェルビナク製剤に対して過敏を定の既住医アスピリン鳴息又はその既住医である。	を伴う炎症、妊婦? は妊娠している可 能性のある婦人、	又 症に用いる 場合には感	はなく対症が	は、 ないことで使用しないこと		1132回患部に貼付する。	下に痛変層腱腱上(筋外膜・膨の炎関層・関連・関連・関連・関連・関連・関連・関連・関連・関連・関連・関連・関連・関連・
フェルビナク ローション	ナパゲルン ローション	プンサースシー アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・ア	X		0.1~1%未満 (そう痒、皮 膚炎、発赤) 0.1%未満(後 触皮膚炎、刺 激感、水疱)		本剤の成分に対し 過敏症の既往歴 アスピリン階感見 はその既発見 (第 作の誘発)	感染を伴う炎症 妊婦又は妊娠して	症に用いる 場合には感	炎 原な対象 はは は法 慢性 形では 受験で では 以 法 と し と し と を り を う が き の が さ り を り を り で さ り さ り さ は よ と し は よ と り は よ よ と よ よ よ よ よ よ よ よ よ よ よ よ よ よ よ よ	聚 いる場合に使用 すると一般性の 刺激感 (i) 眼及び粘膜に使 用しない		売状により、適量を1日数 回慮部に塗擦する。	下に痛変筋痛肩腱腱上(筋外膜・疾状炎関膜 開発炎性原 開発炎性原体 所護 動き 一次の 質性 ほん かいました かいました かいました かいました かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいま

資料4-36 鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬(パップ剤を含む) 製品群No. 57 C 重無な副作用のおそれ C 重雑ではないが、注意 D 濫用のお E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重 F 効能・効果(症状の悪化 G 使用方法(誤使用のおそれ) すべき副作用のおそれ よれ 無な副作用につながるおそれ) につながるおそれ) リスクの程度 A 薬理作用 B 相互作用 H スイッチ の評価 化等に伴う 使用環境の 变化 |重篤ではないが、注意すべ |薬理に基づく |適応禁息 評価の視点 薬理作用 相互作用 重篤な副作用のおそれ。 症状の悪化 適応対象の 使用方法(誤使用のおそれ) スイッチ化 (投与により障害の)につながるお 症状の判別 き副作用のおそれ 等に伴う使 再発・悪化のおそ それ に注意を要 使用量に上 適量使用・鎖使 長期使用に する(適応を) 関があるもの 用のおそれ よる健康被 化 (化) 薬理・毒性に 特異体質・ア 薬理・毒性に 特異体質・ア 併用禁忌(他 効能効果 基づくもの よる健康被 害のおそれ 剤との併用に 基づくもの レルギー等 レルギー等 誤るおそれ) より重大な問 によるもの によるもの 顕が発生する おそれ) 局 カンフル カンフル精 カンフ局所刺 湿潤面へは使用 **患部に適量を塗布あるい** 下記疾患にお 頻度不明(過 ける局所刺 激作用を有 敏症) は塗擦する。 Ltata 所刺 眼又は眼の周囲 後発品の添し、皮膚に塗 激,血行の改 激 付文書を用し布すると発赤 には使用しない 善、消炎、鎮 成 Lit-又は冷感を 痛、鎮痒 筋肉痛、挫傷、 分 生じる 打撲、捻挫、凍 傷(第1度)、凍 療、皮膚そう痒 テレビン油なし ハッカ油 内服のみ メントール 内服のみ ユーカリ油 保険薬辞典 にはきょう み、きょう しゅう、着色 用のみある が活付文書 トウガラシエ トウガラシチ 頻度不明(東 び燗、創傷皮膚及 原液で使用しな ①通常、トウガラシチンキ 皮膚刺激剤と として、10~40%を添加したして下記に用 い、入浴直後の ンキ 激感、疼痛) 使用は避ける 液剤、軟膏剤、硬膏剤又いる。 はハップ剤を1日1~数回 ①筋肉痛、凍 エキスがな 眼又は眼の周囲 局所に塗布する。 かったため に使用しない 瘡、凍傷(第1 チンキで代 ②通常、トウガラシチンキ 度) 用をした として、1~4%を添加した(②育毛 後発品なし 液剤を1日1~数回局所に 塗擦する。 ノニルワニリ なし ルアミド 抗「ジフェニルイ」なし ミダゾール ハタミン成 分 頻度不明(過 使用部位:眼の ジフェンヒドラレスタミン アレルゲンを 炎症症状が 通常、症状により適量を1 蕁麻疹、湿疹、 コーワ軟膏 塗布または皮 敏症) 強い浸出性 まわりに使用し 日数回、患部に塗布また 小児ストロフル 内注射したと の皮膚炎:適 ない。 は塗擦する。 ス、皮膚そう痒 きに起こる発 切な外用剤 症、虫さされ 赤、膨疹、そ の使用でそ う痒などのア の炎症が軽 レルギー性皮 減後もかゆ 膚反応は、本 みが残る場 剤の1回塗布 合に使用す により著明に る。 抑制される。 マレイン酸ク 内服、注射 ロルフェニラ のみ 血」酢酸トコフェ 内服、注 行「ロール (射、配合の 改 ニコチン酸ベ 配合のみ

126

				Í	真痛•鎮痒	収れん・消	肖炎薬(パッ	プ剤を含む)				製品	群No.57	1	資料4-36	
リスクの程度 の評価		A 薬理作用	日相互作用	○ 重篤な副作用の		ではないが、注意 D 濫 F用のおそれ それ		氏住歴、治療状況等)(量 つながるおそれ)	F 効能・効果 につながるお		G 使用方法	(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化		
「価の視点	 	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおう		いが、注意すべ 薬理(慎重投与 (投与により障害の	【につながるお	適応対象の	使用方法(誤	使用のおそれ)	·	スイッチ化等に伴う使	1	
			併用雑忌(他 併用注意 利との併用に より重大な問 調が発生する おそれ)	薬理・毒性に 特異(基づくもの.) レルネ	質・ア 薬理・毒性	に【特異体質・ア		再発・悪化のおそれ)	t th	に注意を要する(適応を 誤るおそれ)	限があるまの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被 害のおそれ	用環境の変化	书法用量	勃能効
疹・皮膚炎			Ingelia, militari A				(entrepris									
		局所用作の分割のでは、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変		(へ眼内で表の使う) の使え、量に前、密ははた。 ので、大変に前、ではない。 のでは、	数0 7 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	探え ジューリー はて 探目 1この関ケ染ー いっこう 横て毛をこえ過な とこ 法・・・ 法・・・ ・・・ ・・・ ・・・ ・・・ ・・・ ・・・・ ・	細へ庸物館配利金原子第の版案件高びがへ期のと 第一の性、引め底に性的速度を 度、分染皮性、原の底に性の進入を 度、分染皮が、 では、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 のでは、	動(分)、1、表でののくく人上治則を炎及性児長衛など、大通は湿疹ののくく人上治則を炎及性児長衛など、大通は湿疹ののくく人上治則を炎及性児長衛など、大通は大通性ののできない。		皮(学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (1	使用した。 使用した。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	期にわたる 広範囲の密 対法(ODT) 等の使用に より、配置な でする。		通常1日1〜数回、適量を 鹿部に送って 地により適当すり 地により を 大に、 た状により を 大に、 を 大に、 を 大に、 を 大に、 を 大に、 を 大に、 を 大に、 を も の は の に 。 に の に 。 に の に 。 。 に 。 に	群(進行
	外用はなし (眼軟膏は あり)															